

北海道の  
**学校図書館**

発行 北海道学校図書館協会  
会長 渡部 浩士  
事務局長 佐藤 正行  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
印刷所 (株) 有 伸 商 会  
TEL (011)814-6211

## 第44回北海道学校図書館研究大会函館大会を終えて 「そうだ、図書館へ行こう！」

函館大会運営委員長 紺野 克典  
(函館市立大森浜小学校長)



9月23日(木)～26日(日)の4日間で、全道・全国各地より200名に及ぶ参加者が函館大会ページにアクセスしていただき、第44回北海道学校図書館研究大会函館大会を無事終了することができました。この大会を開催できましたことに際しまして、ご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様に対し、主催者を代表して厚く御礼申し上げます。

今回の大会の開催に当たりましては、新型コロナウイルス禍のため当初想定していた研究大会とは、まるでかけ離れた形の大会となりました。なかなか感染状況が好転しない中、令和3年の4月末に札幌の地で北海道学校図書館協会の事務局様に対し思い切って「新しい形の全道大会」を提案させていただきました。

他の教科研究大会には無い「教育委員会を含めた行政から保育園・幼稚園、小、中、高等学校、特別支援学級という幅広い学校種の授業実践」を何としても全道の図書館人の皆様に「全てお伝えしたい」という熱い思いからでした。当日、現地の教室に入らなくても授業実践を見ることができ、各領域の目標実現のために日々実践している教育活動の工夫を提言発表としてお届けし、ここ函館の特色溢れるセッションをもお届けできる。「そんな欲張りな方法はないか」と熟慮してできたのが、今回の大会方式です。

9つの授業を予め撮影し、①20分ほどのダイジェスト版に起こす。②45～50分のフルバージョンも示す。提言発表は、函館枠のみとなりましたが、①発表の様子を動画撮影しなるべく見ている視聴者の目線で画面に資料を提示する。②動画の横に資料を添付する。そして、大会開会式の代わりに渡部会長のご挨拶、道の山田研究部長の研究解説。函館大会の加茂研究部長の研究概要の動画も揃えることができました。函館の特色を示した5つのセッションも何とか皆様にお届けすることができました。「4日間の限定ではあるが、好きな時に何回でも観覧できる」そんなコンセプトで提供させていただきました。

学習指導要領の解説総則編では、これからの学校図書館は「読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより学校における言語活動や探究活動の場となる」と述べられています。このように今、学校図書館が果たすべき役割はますます大きくなっています。

今回の函館大会が『学びを支え、豊かな心を育む学校図書館』の実現へ向け、参加者皆様の日々の実践につながり、「そうだ、図書館へ行こう」とワクワクしながらたくさんの園児、児童、生徒が学校図書館を訪れる、そんな光景が実現することを願ってやみません。

結びに、本研究大会を推進するにあたり、ご指導・ご支援いただいた全ての方々への感謝の思いを重ねて申し上げますと共に2年後の苫小牧大会で皆様と再開できることを期して私からの挨拶と致します。

本研究大会開催に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

## 第44回北海道学校図書館研究大会函館大会授業者からの声

機関紙「北海道の読書」では、今号と次号316号の2回にわたって、9月にオンラインによって開催された北海道学校図書館研究大会函館大会で授業公開された9名の授業者の先生から授業づくりの工夫やご苦労、振り返っての御感想などをいただきましたのでご紹介いたします。

### ◇幼・保 読書指導

#### 絵本と保育の楽しさ

認定こども園函館上湯川保育園 保育士 矢原 彩香

この度、北海道学校図書館研究大会の授業者として参加し、初めての公開授業という、とても貴重な経験をさせていただきました。

3年間担任してきた子どもたちと、これまで『となりのトトロ』、『魔法使い』をテーマに様々な活動を楽しんできました。そして、今年度は『恐竜』をテーマに活動し、公開授業では恐竜のしかけ図鑑づくりを行いました。私自身、恐竜というものが未知の世界だったので、不安がありました。子どもたちと共に過ごす中で、『恐竜』という世界から広がっていく、子どもたちの発想とそこから展開されていく遊びに驚かされました。絵本を通して、子どもたちはその物語の世界に入り込み、友だちとなりきったり、一緒に遊んだりする楽しさを感じていました。また、友だちと協力して、遊びを広げていく面白さを感じながら、成長していきました。そんな子どもたちの成長に後押しされ、私自身も成長してこられたと思います。

子どもたちと函館中央図書館へ見学に行った時には、初めて行く子がほとんどで、目を輝かせながら、たくさんの絵本に触れていました。その中で、しかけ絵本と初めて出会い、自分たちで絵本を作りたいという気持ちが生まれました。そして、「としょかんってたのしいね」「また、としょかんにいきたい」と図書館が子どもたちの大好きなところになりました。恐竜しかけ図鑑づくりでは、子どもたち一人ひとりがしっかりとしたイメージをもち、友だち同士で伝え合いながら、協力して作ることができました。作ることに悩んだり、友だちとぶつかったりしましたが、図鑑づくりを通して、作るだけでなく、友だちと一緒に考えたり、助け合ったりして作り上げることの大切さを知る、きっかけになったと思います。力を合わせて、一冊の絵本が完成した時の喜びや達成感、そして1ページ目をめくった時の子どもたちのワクワクした表情が忘れられません。

公開授業という初めてのことでばかりの中で緊張や不安もありましたが、子どもたちの力や楽しそうに取り組む姿に支えられながら、楽しく充実した時間を過ごすことができ、多くのことを学びました。この度の公開授業を通して、図書館へ行くことの楽しさや絵本の大切さ、そして、私自身が感じた、子どもたちの可能性をたくさんの方々に伝えられると嬉しいです。

この度、公開授業で経験できたこと、また、これまでの過程で学んだことを今後の保育に活かしながら、より一層努力し、経験を積んでいきたいです。そして、このような貴重な機会をいただき、大会関係者の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

### ◇小6 読書指導（国語科）

#### 「正しい本」に出会うために

函館市立北美原小学校 教諭 森 紗織

読書は「よいこと」という考えは子どもにも大人にも十分に浸透しています。幼い頃からの読み聞かせに始まり、学校での読書に関する学習活動、大人になってからも読書会の活動や電子書籍の広がりなど、読書を肯定する環境は整ってきました。しかし、日常の1つとして読書を受け入れていても、一部には読書に苦手意識や抵抗感、そしてそれが少しの罪悪感につながっている場合もあると感じています。

今回の函館大会で読書指導部会の授業者として参加させていただくことが決まり、読書が特別なことではなく日常である子どもたちに、どのようなアプローチをしたらよいのか、このコロナ禍での実践として何ができるのか、大いに悩みました。

そこで、国語の授業として考えた時に、教科書の改訂に伴い「書評を書いて話し合おう」という単元が加わりましたので、この機会を好機とし、挑戦的な実践にしていこうという思いでやらせていただくことにしました。

子どもたちにはまず、「もし読むことが好きでないのなら、あなたはまだ正しい本を見つけていない。」ハリヤー・ポッターの著書で知られるJ・K・ローリングの言葉を紹介します。そして授業者として「読書が好きだと言えなくても大丈夫。それはまだ、そんな本に出会っていないのだから。その一冊に出会うために読書をしてみよう。そして、ぜひ他の人が会うためのお手伝いをして見ない？」そんなことを語りかけながら単元を始めました。

試行錯誤の連続の実践でしたが「Chrome bookを活用しながら学校図書館に書評を展示する」という活動を通して、読書の意義を改めて認識し、これからの読書生活へつなげることを目指しました。

自分の読書生活を振り返り、その有効性を言葉で語ったり、文字で表現したりする学習活動に取り組むうちに、変化の一端が日常に表れていきます。朝読書の選書の傾向が少しずつ変わっていったのです。これまでの楽しさや心が落ち着くことを目的とすることに加えて、必要感をもってより詳細な目的で本を探し、より自分のための読書にしようとする姿が増えていきました。

ある朝の読書中に、日直の子が活動の終わりを呼びかけようと黒板の前に立った際、クラスみんなが広げる絵本・日本史・スポーツ・小説・プログラミング・法律・図鑑など様々なジャンルの本の表紙を見渡し「どの本も全部いい。」とつぶやきました。前列の子どもたちが一斉に、にんまりして自分の本の表紙を見る様子が一番印象に残っています。

「正しい本」を見つけるために何年、何十年かかるかもしれない。それでも、諦めずに追い求めてほしい。その思いを強くしました。

不勉強なまま授業者として参加させていただきましたが、この大会を始まりとし、子どもたちのために学んでいければと思っております。この機会を与えてくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ◇小4 情報活用能力の育成（社会科）

### 函館中央図書館との連携～「ごみはどこへ」の授業

函館市立大森浜小学校 教諭 森田 真人

この度の北海道図書館研究大会は、地元函館での開催となり、授業者として参加させていただきました。

公開授業は、社会科で「ごみはどこへ」の学習をおこないました。ごみに関わる学習をした後に、深く追究したいテーマを各自に持たせ、各自がテーマを追究しその成果を新聞形式にまとめるといった単元を構想しました。

公開授業本時は、図書室で自分のテーマにあった図書資料を選択し、資料を読んで「分かったこと」「気づいたこと」「思ったこと」をカードに記入していく授業とすることにしました。場の設定として、図書資料を確保する必要がありました。本校の図書室には関係する図書資料が60冊ほどありましたが、さらに、函館中央図書館の協力を得て約80冊の図書資料を準備することができました。函館中央図書館から貸し出ししていただいた図書資料を“リサイクル”“海洋プラスチックごみ”“清掃工場のしくみ”など、子どもたちの追究テーマにあわせて本校図書室の分類にそって棚に収納しました。

本時の授業には、本校の学校司書、函館中央図書館の司書2名、合わせて3名の司書の方々にも入っていただきました。司書の方には、図書館での分類番号による本の探し方。出典は本のどこを見てどのように書けばいいのかといったことを指導していただくとともに、子どもたちが図書資料を選ぶ際の支援もしていただきました。

昨年度も国語の「ことわざ・慣用句」の授業の際、函館中央図書館や市内各校の図書室からたくさんの図書資料を貸し出ししていただいたり、司書の方々にも支援に入っていただき授業を行いました。

このように、公開授業を通して、学校図書館や市町村立図書館と連携した授業作りに取り組んできました。何よりも豊富な図書資料を目にすることで、子どもの追究しようとする意欲が高まりました。また、実際司書の方に図書館での本の検索の仕方や出典の見つけ方などを教えていただき、子どもたちにとっても有意義な授業作りができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ◇小 特別支援学級 読書指導（国語科）

### スマイル絵本を作ろう～『もぐらバス』

函館市立大森浜小学校 特別支援学級担任 小野 真理

第44回北海道学校図書館研究大会が、勤務校である大森浜小学校を会場として実施されるという縁あって、特別支援学級の子どもたちに対する読書指導の授業者として参加させていただきました。

授業を行った特別支援学級の子どもたちは、1語文の親しみやすい言葉を拾って読める児童から、当該学年の教科書を読んで学べる児童まで、実態に幅がある特徴があります。その子どもたち全員に、共通した教材を使ってどのように読書に親しませればよいかと考えたのが授業づくりのはじめの一步でした。

特別支援学級の子どもたちが読書をする、と言ったときに、まずは本に『興味をもって着目する』ための手立てが必要だと考えました。学級内でのお互いの仲間意識は強く、男女や学年関係なく声を掛け合ったり、助け合ったりできる児童の実態があったので、本の中に学級の仲間が登場することで意識が向きやすくなるのではないかと思い、絵本の原作を基盤として、自分たちが登場するページを作っていくという授業構成となりました。

絵本の中に子どもたちを登場させるため、選ぶ・思いを考える・動作化する等の活動を行うことにより、絵本に出てくる単語の意味や場面の状況、文脈等をより具体的にイメージする一助としました。今回教材として選んだ、絵本『もぐらバス』は、登場人物の様子や場面展開から、ユニークさやおおらかさ、温かさが感じられる物語となりました。自分のページを作る際に、場面の様子や切り離された言葉選びとならないように、その登場人物のおおらかさ等も伝えながら授業を行いました。

今回、特別支援学級の子どもたちに対する読書指導を授業で行って見て、児童の実態・発達段階に適した本を教師が意図的に用意する大切さを実感しました。今回の授業で活用した絵本は物語の展開が次々にあるものでしたが、それでは状況の把握などが難しい児童もおり、同じ言葉や場面が繰り返される構成のものや擬態語を中心としたものの方が実態に合っている場合もあったかもしれないと感じました。

また、読書に親しむきっかけ作りは授業を通してできたかもしれませんが、子どもたちが読書を続けて楽しむための手立てや環境作りはこれからさらに考えていかなければならない点だと思います。

今回の授業で得た成果と課題を意識し、特別支援教育での図書や図書館の活用について今後も学び深めていきたいと思っております。北海道学校図書館研究大会で授業をするという貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

## ◇中1 読書指導 (国語科)

## 本を深く読み、「群読」へ

遺愛女子中学高等学校 国語科教諭 南 時子

このたび北海道学校図書館研究会函館大会において研究授業の機会をいただきました。

「群読をしよう」という取り組みの中で、生徒たちが班で本を選び、読む部分を選び、演出をして発表し、発表後のふりかえりの時間を研究授業といたしました。

「群読」は「朗読」の形の一つです。全国あちこちの小中高校で、国語教育の一部に取り入れています。いちばん馴染みが深いのは小学校の卒業式での「よびかけ」ではないでしょうか。

本校では昨年度から中学1年生の国語で始めました。コロナ禍において、多くの活動が制限される中で少しでもものびのびとした授業ができないかと考えてのことでした。当初はパフォーマンスとしての芸術性や表現力に目を向けていましたが、今回の「研究授業」をきっかけに別の方向から考えて、「読書」と深く関わる取り組みであることに気づきました。

班の中でオススメの本の紹介をし合い、選んだ本から読むテキストを吟味して取り上げ、何を伝えたいのかを話し合い、自分たちの声と体を使って、どういう表情で読むか、どんなリズムで読むか等を考えるために、生徒たちは本を深く読みました。それを表現することで、客席で見聞きしている生徒の中にも新たな読書の入口ができました。全部で10グループの発表がありましたが、長編小説の一部、短編小説、絵本、童話、ノンフィクションと多様なジャンルがあり、楽しいもの、悲しいもの、面白いもの、考えさせられるものと様々な趣があり、「あの本読んでみたいな」という思いをそれぞれが持ったようです。研究授業では、タブレットを使用して自分たちの群読の映像を見ながらふりかえりをまとめました。班ごとのコメントの発表から、群読の取り組みを通してさらに新たな気づきがあったことがうかがわれました。これからの読書生活の充実が期待されます。

「読書」は「国語」の一環であるとともに、どんな分野でも基本となる取り組みです。これからの読書指導が生徒たちの世界をより広げる助けとなるように取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の研究授業を作り上げるにあたり、撮影と編集の労をお取りくださった先生方、準備段階からご協力ご助言をいただいた関係の先生方、そして「群読」に一緒に取り組んで下さったパートナーの先生に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

## ◇中2 資料活用 (国語科)

## 素晴らしい本との出会い～その裏側にある努力

北海道教育大学附属函館中学校 教諭 森谷 剛

令和3年度北海道学校図書館研究大会函館大会において、中学校資料活用部会の授業者として参加させていただきました。

目の前の生徒がどのように変容していくのか、それを参加者の皆様がそれぞれの視点でご覧いただき、少しでも皆様に函館での取り組みの成果をアピールしたかったのですが、動画配信による授業公開となり残念でなりません。

この大会で私自身が得られたことは「図書館の魅力」を再認識できたことです。素晴らしい本との出会いは人生を豊かにしてくれます。その出会いの裏側には多くの方々努力があって、初めて素晴らしい本と出会うことができるのだ、ということに改めて感じる事ができた大会でした。

単元を進めていく中で、生徒が情報収集する場を設けています。そこには本が必要となったため、函館市中央図書館と連携し、生徒が情報収集できるように、図書館司書の皆様が総出で、多くの本の貸し出しにご協力していただきました。

大会日程第2日目のセッションでは、「公立図書館の世界」という函館市中央図書館館長の丹羽秀人さんの講演と、「映画の街・函館を目指して」という函館シネマアイリス代表の菅原和博さんの講演に参加しました。

「公立図書館の世界」では、本を保存していくことの困難さを学びました。函館では昭和9年3月21日に函館大火と呼ばれる災害に見舞われ、木造住宅が多かった函館は大きな被害を受けました。この経験から、函館で図書館を作るには、鉄筋コンクリートで耐火対策が施された施設が必要だと考えられました。書庫から施設の建築設計、そして今では市民の誇りとなっている函館中央図書館の完成、これらのつながりを知ることができた時間となりました。

「映画の街・函館を目指して」では、函館シネマアイリスという、函館市民に愛されている映画館の創立秘話や、函館を舞台とした映画の制作に取り組む様子を知ることができました。函館市出身の佐藤泰志さんという小説家の作品に焦点を当て、函館を舞台に制作する映画が広がったことで、佐藤泰志さんの作品がもう一度世の中に書籍として発行された、とのエピソードを聞くこともできました。

北海道学校図書館研究大会函館大会。素晴らしい本との出会いの裏側にある努力を、様々な形で知ることができた、非常に貴重な時間でした。多くの皆様のご尽力に感謝しています。

## 第33回読書感想画コンクール・第9回全道コンクール募集要項

- 1 主 催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後 援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書 (推薦「北海道青少年のための200冊」) (2) 指定読書 (主催者が指定した図書)  
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 令和3年12月24日(金)
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒  
満20歳以下に限る。(2001年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。  
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)  
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切〜4つ切)とする。  
※絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。  
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)  
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項のものを使用) ※作画感想は原則として自筆とする。  
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・DVD等の場面をまねたものは審査の対象としない。
- 7 応募に当たって  
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。  
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。  
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ☎060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社  
『第33回読書感想画コンクール・第9回全道コンクール』係  
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部  
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞  
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞  
2) 学校賞〜上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校  
※各部上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。  
※入賞発表は、毎日新聞紙面にて行う(2月上旬予定)

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	価格(税込)
小学校 低学年	みどりババ	ねじめ 正一 (作) 下田 昌克 (絵)	童心社	1,540円
	宇宙人がいた	やまだ ともこ (作) いたう みき (絵)	金の星社	1,320円
	アパートのひとたち	エイナット・ツアルファティ (作) 青山 南 (訳)	光村教育図書	1,650円
小学校 高学年	地球がうみだす土のはなし	大西 健夫、瀧澤 彩 (文) 西山 竜平 (絵)	福音館書店	1,430円
	サステナブル・ビーチ	小手鞠 るい (作) カシワイ (絵)	さ・え・ら書房	1,540円
	江戸の空見師 嵐太郎	佐和 みづえ (作) しまぎき ジョゼ (絵)	フレーベル館	1,540円
中学校 ・ 高等 学校	お話のたきぎをみつめる人：魔法の図書館の物語	ハーレンティン妃、パウル・ヴァン・ローン (作) 西村 由美 (訳) 佐竹 美保 (絵)	徳間書店	1,540円
	星空をつくるプラネタリウム・クリエーター大平貴之	楠 章子 (作)	文研出版	1,540円
	世界とキレル	佐藤 まどか (著)	あすなる書房	1,540円
中学校 ・ 高等 学校	霧から0へ	まはら 三桃 (著)	ポプラ社	1,760円
	きみのいた森で	ピート・ハウトマン (作) こだま ともこ (訳)	評論社	1,760円
	大切な人は今もそこにいる：ひびきあう賢治と東日本大震災	千葉 望 (著)	理論社	1,430円
	武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方	宮田 律 (著)	平凡社	1,540円

令和3年度(2021年度) 北海道の先生がおすすめる本

# 北海道指定図書

## 小学校低学年の部(1・2年)



### 悲しみのゴリラ

ジャッキー・アズー・クレイマー/文  
シンディ・ダービー/絵 落合 恵子/訳  
クレヨンハウス 定価1,800円+税  
母親を亡くした少年のもとに現れたゴリラ。少年の問いに一つひとつ答えます。深い悲しみにそっと寄り添う絵本。



### かしたつもり×もらったつもり

かさい まり/作 北村 裕花/絵  
くもん出版 定価1,400円+税  
聞きまちがいから始まる。親友の男の子ふたりのけんかとお仲直り。小さな心のゆれが子どもたちの共感をよぶ物語です。



### 氷上カーニバル

あべ 弘土/作  
のら書店 定価1,600円+税  
"雪まつり"以前、札幌市でおこなわれていた"氷上カーニバル"。よるこびあふれる楽しい記憶を描いた美しい絵本。



### アルフィー ゆくえふめいになったカメ

ティラ・ヒーダー/作 石津 ちひろ/訳  
絵本塾出版 定価1,500円+税  
ニアは、カメのアルフィーが大好き。ニアの7歳の誕生日の朝、アルフィーが姿を消してしまう。どこへいったの？

## 小学校高学年の部(5・6年)



### しあわせなときの地図

フラン・ヌエヨ/文 スザンナ・セレイ/絵 宇野 和美/訳  
ほるぶ出版 定価1,400円+税  
戦争で町をでる前の夜、ソエは地図をひるげ、思い出の場所にしるしをつけました。心に響く、小さな希望の物語。



### 消えたレッサーパンダを追い! 警視庁「生きもの係」事件簿

たけたに ちほみ/文 西脇 せいご/絵  
学研プラス 定価1,400円+税  
動物園からレッサーパンダが盗まれた! 警視庁で生き物の密輸などを扱う「生きもの係」が事件にせまる。迫真の実話。



### きみの声がききたくて

オーウェン・コルファー/作 P.J.リンチ/絵  
横山 和江/訳  
文研出版 定価1,400円+税  
深い傷を負いほえることができなくなった小犬と、声を出すことをやめた少年。ふたりの同じねがいはかなうでしょうか。



### 命のうた ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児

竹内 早希子/著 石井 勉/絵  
童心社 定価1,400円+税  
1945年、戦争が十歳の清一郎から、両親も家も奪った。食べる物も寝る所も無い中で子ども達はどのように生きてきたのか…。

## 小学校中学年の部(3・4年)



### 世界遺産知床の自然と 人とヒグマの暮らし

伊藤 彰浩/写真 伊藤 かおり/文  
少年写真新聞社 定価1,600円+税  
人前に姿を現し観光客を驚かせる反面、地元の人々を不安にさせるヒグマと人との共存の知恵を知床から伝えます。



### AIロボット、ひと月貸します!

木内 南緒/作 丸山 ゆき/絵  
岩崎書店 定価1,200円+税  
ぼくにそっくりのAIロボットがやってきた。名前はエイト。夢のような一か月が過ぎて…その日は来てしまった。

## 中学校の部



### ドーナツの歩道橋

升井 純子/著  
ポプラ社 定価1,400円+税  
麦菜はパン屋を営む両親と弟、祖母と暮らす高校一年生。介護が必要な祖母との毎日に、心は「好き」「嫌い」に揺れ—。



### イーブン

村上 しいこ/作  
小学館 定価1,400円+税  
友人と喧嘩をして不登校になった美枝里は、キッチンカーでカレーを作るおじさんと少年に出会う。少女たちの成長物語。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。 [北海道学校図書館協会](#) 検索

## 第67回 青少年読書感想文全道コンクール 第47回 北海道指定図書読書感想文コンクール

- 主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社
- 後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会
- 選定協力/北海道読書推進運動協議会

北海道の本を読みましよう!

## 第54回 北海道学校図書館研修講座 へのご案内

さらに詳しい情報は、別紙の開催要項案内(11月上旬に本会ホームページにも掲載)をご覧ください。

主催 ● 北海道学校図書館協会  
 後援 ● 北海道教育委員会 札幌市教育委員会  
 趣旨 ● 学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学びの指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ● 令和4年1月7日(金)～15日(土) ※オンライン開催

1月7日(金) 全道研究部長会

1月8日(土)～14日(金) 講座資料・動画公開、質問受付

1月15日(土) 18:00～18:30 オンラインQ&A

18:40～20:00 オンライン懇親会

ファイルダウンロードシステム「ギガファイル便」を利用した資料のダウンロード(PDF方式)、および限定公開YouTubeによる動画視聴。講座によって、資料のみ、動画のみ、資料と動画の両方、のいずれかとなります。

参加資格 ● 学校図書館及び読書指導・情報活用能力の育成に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ● 申込の方全員にご受講いただけます。オンライン懇親会は先着100名まで。

参加費 ● 1000円 ※申し込み後のキャンセルはできません

オンライン開催のため、例年は選択して受講する講座が、今年は希望するものすべてを受講可能です！ご参加をお待ちしています。

参加申込 ● 参加ご希望の方は、12月1日(水)～25日(土)の期間に、  
 イベント申し込みサービス Peatix で お申し込みください。

<https://54douslakensyu.peatix.com>

申し込み開始日前には、アクセスできません



**A：講演** ～教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。

「学校図書館における読書バリアフリーの推進～「誰一人取り残さない」環境づくり～」

専修大学 文学部教授 野口 武悟氏

**B：ファーストコース**

～学校図書館に関して基礎から学びたい方におすすめのコースです。

1. 講義「管理・運営」  
北海道教育大学札幌校 非常勤講師 野村 邦重氏
2. 講義「読書指導」  
札幌市立北郷小学校 司書教諭 山田 佳子氏
3. 講義「情報活用能力の育成指導」  
北海道七飯高等学校 司書教諭 加藤 孝志氏

B・C・Dの各講座については事前に質問を受け付け、その中から1月15日の「オンラインQ&A」の時間に講師が回答、または後日書面でお答えします。

**D：実践発表** ～実践から学びましょう。

1. 実践発表「一人一台端末、どう使ってる？」  
札幌聖心女子学院中学・高等学校 学校司書 原 知枝氏
2. 実践発表・オンライン座談会  
学校司書「全道各地の進んだ実践に学ぶ」  
苫小牧市立北星小学校 学校図書館司書 山田 貴子氏  
札幌市立屯田北中学校 学校司書 大山真奈美氏  
北海道帯広南商業高等学校 指導実習助手 山野 町子氏  
オンライン座談会：司会  
札幌市立手稲中学校/稲積中学校 学校司書 浅村麻姫子

**C：ステップアップコース**

～もう一步深めたい方におすすめのコースです。

1. 講義「楽しく進める情報活用能力の育成指導 2021」  
(公社)全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子氏
2. 講義「わくわくドキドキ読み聞かせ」  
札幌市立もみじの森小学校 教諭 安藤理恵子氏
3. 講義「ステップアップ・読書アニメーション」  
札幌市立栄小学校 教諭 佐藤 広也氏
4. 講義「徹底的に分類してみよう！」  
北海道学校図書館協会研究部 新田 裕子氏
5. 講義「パワーポイントで作ろう オリエンテーション放送」  
札幌市立栄町中学校/栄南中学校 学校司書 児玉 優子氏

**E：指導者研修講座(第57回全道研究部長会)**

1. 第44回北海道学校図書館研究大会(函館大会)反省
2. 支部研究交流  
各支部研究部長  
北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子  
(札幌市立北郷小学校 司書教諭)  
北海道学校図書館協会事務局長 佐藤 正行  
(札幌市立西南南小学校 校長)

お問い合わせはメール、またはFAXでお願いいたします

問い合わせ先 浅村 麻姫子 メールアドレス: [hokkaidosla2021@gmail.com](mailto:hokkaidosla2021@gmail.com)

FAX: 011-684-5738 (札幌市立稲積中学校)

※今年度の専用アドレスです。  
 昨年度までとは異なりますので、  
 ご注意ください。

## 学校図書館情報

### ◆第75回読書週間 [公益社団法人読書推進協議会]



「最後の頁を  
閉じた 違う  
私があった」

標語の作者 緑川良子氏。  
「没頭できる本に出会うと読み終えてもすぐに現世に戻りません。しばらく宙に浮いたような感覚のあと、我に戻っても、読む前とは確実になにかが変わっています。そんな出会いをいつも楽しみにしています。」

ポスターの作者 いらいたまも氏。「夢中で本を読み進め、最後の頁を閉じるころ。それまでとは違う考えをもつようになり、ものの見方をしたりするようになった経験はありませんか？そんな、世界をひろげる本との出会いがありますように。」

お二人とも、自らの読書体験を、魅力的な言葉と絵で豊かに表現されています。

読書の力の素晴らしさについて、読書週間を機に改めて広げていきたいですね。



### ◆読書感想文コンクール・中学生作文コンクールの審査が行われています

両審査に係り各支部の審査員の皆様にはご尽力いただきまして、ありがとうございます。今年度こそは表彰式を実現し、子どもたちの晴れがましい姿に立ち会えることを願っています。

### ◆第33回読書感想画コンクール・第9回全道コンクール ⇒募集締切12月24日(金)

全道の小中高等学校・特別支援学校に向けて先月要項を発送しました。締切まで時間がありますので学校関係者の皆様には、応募への働きかけをお願いいたします。またその際には、「自由読書」に令和3年度「北海道青少年のための200冊」を是非お薦めくださるようお願いいたします。

### ◆令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果について

文部科学省が実施している「学校図書館の現状に関する調査」の令和2年度調査結果が公表されました。

これは、全国の小・中・高校、特別支援学校、義務教育学校及び中等教育学校に対して、学校図書館における人的整備の状況、学校図書館における物的整備の状況、学校図書館の活用及び読書活動の状況を調査したものです。都道府県別の学校図書館の整備状況等が示された興味深い統計資料です。文部科学省のHPから閲覧できます。

### ◆ホームページ 「困ったときにはこれを読め！」

Topページ「学校図書館の活用資料」に、ブックリスト「困ったときにはこれを読め！」を新設しました。「著作権」「特別支援教育」「若い教師向け」の3つのリストがあります。困ったときのみならず、是非ご覧ください。

## 事務局

事務局長 佐藤 正行(札幌市立西岡南小学校長)

事務局校 札幌市立西岡南小学校

〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条12丁目7-1

TEL 011-582-6350 FAX 011-582-1590

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

## キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

### ◆新刊紹介

### 【新版】『14歳からの精神医学 心の病気ってなんだろう』

2021年1月12日初版

ISBN 978-4-535-98497-4

日本評論社 1,400円+税

医師として、子どもの発達に関わる臨床から、この10年間の診断基準や病名の変更にとどまらず、発達障害＝「神経発達症」「インターネットやゲームへの依存」など、近年教育現場や子育ての場で注目されるようになったテーマについての新章

を書き下ろした。さらに、高等学校学習指導要領が改訂され、2022年度から高校の保健体育で約40年ぶりに「精神疾患の予防と回復」について学ぶことになった。心の病気って、どんな症状があるの？どうしてかかるの？どんな治療をするの？友達や親がかかったら、どうすればいいの？

以前と比べて身近なものとなったとはいえ、玉石混淆の情報が溢れるなか、精神疾患についての正確な知識をやさしく学べる本書は、中高生自身はもちろんのこと、保護者・教育関係者にとって必携の一冊です！



## 編集後記

「第44回北海道学校図書館研究大会函館大会」は、大成功の裡に終了しました。函館・渡島の皆様、ありがとうございました。初めてのオンライン開催は、これまで大切にしてきた授業公開や提言、セッション等、内容の充実を維持しつつ編集技術を駆使しての発信となりました。大会にかける想いが随所から伝わりました。ご参加いただいた皆様にも感謝申し上げます。2年後の苫小牧地区での開催を皆で応援していきましょう。

(編集：村山 知成 杉本 操 野村 邦重)  
大久保雅人 佐藤 正行

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>